

市庁舎駐車場満車状態が恒常化、解決策は

新風会 勝山 修



質問 ↓市役所来庁者用駐車場は、満車状態が恒常化しているが、合併前と比較して利用状況はどうか。また、現状をどのように解決していくのか。

答弁 ↓現在、百四十九台の駐車が可能。

二時間以上満車だった日数は、合併前の一年間の月平均九日に対して、合併後は、十六日で、一・八倍に増加。本年度は、ほぼ満車状態。市庁舎東側の市営プールを廃止し跡地を公園駐車場に整備したい。

質問 ↓津山市の地産地消センター「サンヒルズ」の利用状況はどうか。郷土料理、地域の食材を使った農業レストランの併設はできないか。

答弁 ↓六ヶ月間で、利用客約五万人、販売額約四千万円で順調に推移している。加工施設を併設する案もあったが、運営面に課題もあり、今後研究したい。

後期高齢者医療制度とは

津山再生クラブ 齋藤弘道



質問 ↓医療制度改革法案が今年六月に国会で可決成立し、平成二十年度より現行の老人保健制度は廃止となり、新たに七十五歳以上を対象とした後期高齢者医療制度が導入されること

となった。さて、この医療制度、老人に新たな負担を強いる制度としか思えない。高齢者の負担はどうなるのか、そして津山市としての支援策をどう考えているのか。

答弁 ↓これは高齢化が進む中、医療制度改革の一環として設けられるものである。医療費の自己負担割合は現行の老人保健制度と変わらず、一割又は三割である。保険料は高齢者一人ひとりに賦課される。法令上、医療費全体の十二分の一を市町村が負担し、広域で運営するため、津山市独自の支援策は現在困難である。

ごみ減量施策と協働

みどりの会 佐々木裕子



質問 ↓ごみ減量は行革効果が大き。来年度からのごみ減量はどのように進めるのか。減量のポイントは。

答弁 ↓平成十九年度から五年間を計画期間とする「ごみ減量新行動計画」を

策定中。紙ごみと生ごみの減量を中心に、特に事業系ごみのリサイクルを最大の重点目標に具現化したい。

質問 ↓ごみ減量には情報提供が必要。分別に詳しい市民の協力を得て、協働でごみ減量を進めてはどうか。

答弁 ↓効果のある手法と思うので対応について検討したい。

県と一体となり大型企業の誘致を！

政津クラブ 秋山幸則



質問 ↓大型企業の誘致を成功させるためには、県の団地が条件となる。県と一体となりトップセールスを展開すべきである。高齢者を狙い撃ちする増税、負担増で悲痛の声が出ている。

津山市の対応策はあるのか。

答弁 ↓大規模工場立地促進補助金は県営団地が条件であり、県と十分調整し、政治的な最善の努力をしたい。新規納税者は三千六百人発生し、介護保険料も負担増で、問い合わせがあり対応に追われた。国の制度なのでやむを得ないが津山市の対策は、住み慣れた自宅や地域で安心して生活ができるよう、在宅サービス・地域密着型サービスの充実で、津山市に住んで良かった、長生きをして良かったと言われる制度や施策の充実に努めていきたい。